

トルコ金融政策（2020年12月）

市場予想を上回る2.00%ポイントの大幅利上げ

2020年12月25日

強力な金融引き締め姿勢で中銀に対する信頼が一段と高まる

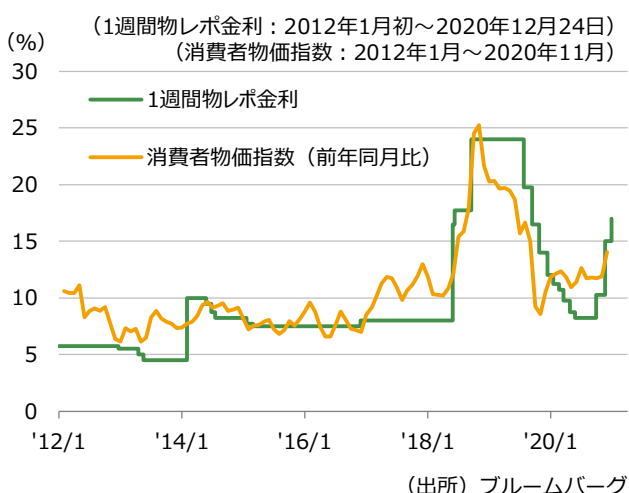
トルコ中央銀行は12月24日（現地）、政策金利（1週間物レポ金利）を15.00%から17.00%に引き上げると発表しました。トルコ・リラは、利上げを織り込んで先週から上昇してきましたが、利上げ幅が市場予想の1.50%ポイントを上回ったことなどから、発表後も上昇が続きました。

声明文では、国内需要の回復、通貨安、国際的な食品・商品価格の上昇などがインフレ見通しに悪影響を及ぼし続けており、できるだけ早くインフレを抑制するために強力な金融引き締めを実施することを決定したと説明されています。また、今後はインフレ率の恒久的な低下と物価の安定が示されるまで引き締めの金融政策スタンスを断固として維持するとし、高金利政策の長期化が示唆されています。

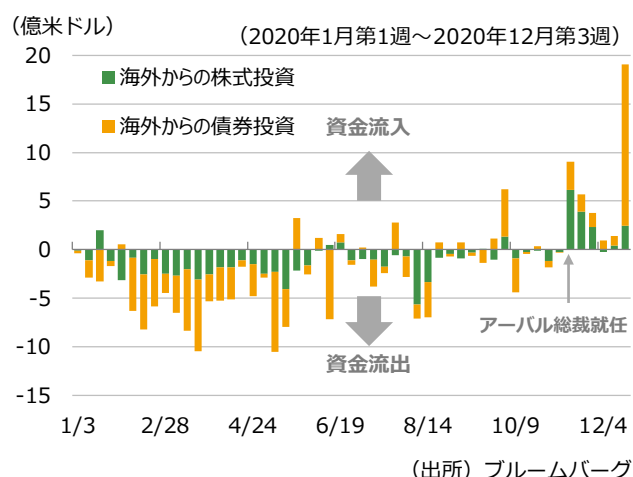
海外からトルコ金融市場への証券投資は、アーバル氏がトルコ中銀の総裁に就任した11月第2週をピークに減少傾向にありましたが、先週（12月第3週）は追加利上げ期待などから急増しました。少なくとも債券投資の資金流入はしばらく続きそうです。また、リラ安の一因であった国内の家計・企業が資金を外貨にシフトさせる動きも、国内預金金利の上昇により抑制される期待が出ています。より長い目で見れば、高金利政策による内需抑制で輸入が減少し貿易収支が改善すること、新型コロナウイルスが収束に向かい外国人観光客数が増加することによりサービス収支が改善することの2点が通貨の安定には不可欠と言え、これらの動向を注視していく必要がありそうです。

アーバル総裁就任以降の金融政策スタンスの大転換により、市場参加者のトルコ中銀に対する信頼が高まっています。今後、再びリラ安圧力が強まるような場面があれば、以前よりも追加利上げへの期待が高まりやすくなると思われ、結果的にリラの一方的な下落は抑制されると考えられます。

1週間物レポ金利と消費者物価指数



トルコ株式・債券への海外からの投資額



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。